

阪南市 地域まちづくり座談会



※感染症対策を万全に行い、会議を実施しました。

阪南市の成長を、内側から長年見てきた地域の福祉相談員の皆さん 昔と今で変化した環境、そしてこれからの阪南市の成長の糸口は何か。

令和3年1月15日、阪南市交流館3階の第3会議室、第4会議室にて阪南市地域まちづくり座談会が実施され、地域の福祉相談員による意見交換が行われました。

1 近年の困りごと

◆現在、高齢者・障がい者の相談が増えてきているのでしょうか。

- 一 増えていると思います。今後、地域内でどのようにつないでいくかが課題ですね。
- 一 高齢の親などで、問題意識がみられないことがあります。問題として表面化する際は、いわゆる「8050問題」になっているケースもあります。
- 一 相談先が分からないケースも見受けられます。一方で、相談すること自体にためらいを感じ、潜在化していて、深刻化することもあります。
- 一 相談自体が「恥」と感じる人もいらっしゃいます。

◆地域内で核家族化は進展してきていますか。

- 一 進展しています。年を取ってからひとりになり、困りごとが噴出するケースが増えてきています。

◆そうした課題に対して、市・社会福祉協議会などどのような対応を取ってらっしゃいますか。

- 一 相談窓口を設置して、漏れがないように対応しています。
- 一 また、地域の気軽に参加できるサロン・カフェに相談員が出向いて、相談を受けています。

◆自治会・民生児童委員との連携や市などとの協働はどうなっていますか。

- 一 連携や協働には継続的に取り組んでいますが、担い手を確保することが課題です。
- 一 自治会によっては、年単位で役員が変わるため、継続的な支援体制として機能させるには、難しいものがありますね。
- 一 また、手厚くサポートするためには、地域のセーフティネットの必要を感じます。

◆地域で孤立化を防ぐには、どうすればよいですか。

- 一 孤立化を防ぐためには、ボランティア活動を支援するなどの仕組みが必要です。
- 一 人同士・地域の関係性などに対して「きずな」を育み、住民意識を高めることが重要です。

2 阪南市の課題解決に向けた取組

◆阪南市にはセーフティネットが必要ですか。

- 一 もちろん必要です。特に、年を取ってひとりになると、周りの困っている人を自分ごととして捉えられるようになるため、人のつながりといったセーフティネットは重要です。
- 一 義務教育の段階から、人や地域のネットワークの必要性を教えていくことで、ネットワークを大切にする意識を育めると考えています。

【取組】

- 一 市内の小中学生向けに、認知症を知ってもらう事業を実施（カリキュラムの関係で実施できないこともあります）。

◆学校の授業以外での取組はありますか。

- 一 「子ども福祉委員」など、高齢者の困りごとを子どもたちが支援する取組を始めました。
- 一 子どもの頃から地域に関わり、社会課題に触れていると、将来地域に戻ってくる契機になりえるのではないかと考えています。

◆日常生活における交通環境はいかがでしょう。

- 一 地域により課題はありますが、独自に移動支援を実施しているところもあります。
- 一 平成29年に、要介護者の全数アンケートを行ったところ、ハード面では「買い物・交通」、ソフト面では「支援する側・される側ではなく、お互いが尊敬できる関係構築」が重要という結果となっており、買い物支援を中心に重要性が増しています。
- 一 まずは、歩道の整備が必要です。過去の歩道整備で自動車の出し入れを考慮したため、歩道に段差が多く、出歩く際に危険であったり、支援の際の障壁になったりする場面が多いです。
- 一 また、認知症の方の運転問題については、認知症の進行を防ぐためにも、車社会から脱し「歩く文化」を根付かせることが重要だと考えられます。

3 阪南市の土地利用などを含めた将来について

◆今後、増やしていきたい世代についてお伺いします。

- 一 【市】総合戦略にも掲げた子育て世代、主には30～40歳代を増やしていきたいと考えています。
- 一 阪南市は、福祉に力を入れているまちなので、新しい住民の受け入れに際しても、福祉のつながりを軸にすることが重要だと思います。
- 一 一方、地域を知らない、地域に入ること自体が難しいこともあります。また、地域で知り合う機会というものが少なくなってきています。

用語解説

【くらしの安心ダイヤル事業】

阪南市では、自治会や自主防災組織、民生委員児童委員協議会、校区福祉委員会、いきいきネット相談支援センターなど地域の各関係団体・機関が連携し、日常からの見守り・声かけ活動を大切にしながら、災害時には安否確認を行うなど地域ぐるみで災害時要援護者を支え合う「災害時要援護者登録制度（くらしの安心ダイヤル事業）」を実施しています。

【子ども福祉委員】

担い手不足に悩みがちな高齢者の生活支援ですが、大阪府の最南端の市、阪南市で、府内外から注目を集めている取組があります。市内の小・中学生が高齢者の生活支援の担い手として活躍する「子ども福祉委員」は、社会福祉協議会が校区福祉委員・民生委員などの地域の協力者とともに進める活動。民生委員からの地域情報に加えて、子どもたち自身が「誰かのためにできること」を発見、足を運んで困りごと解決に取り組んでいます。

一 知り合うためには、まず話し合う機会が必要です。地域において、話し合うテーマや将来的なテーマがあると、地域で話し合いができて、人と人のつながりが醸成されると考えられます。

◆コミュニティについてお伺いします。

- 一 地域で活動していると、色々な「ヒト」に出会えます。高齢者ほど元気な姿を拝見します。
- 一 社協において、高齢者・障がい者などの作品を展示する「きらめきアート作品展」を開催したところ、多くの方が「すばらしい」と言ってくれました。公共施設ではなく、もっと広く知ってもらう場が欲しいと考えています。例えば、尾崎駅での展示などもおもしろいのではないかと。
- 一 コロナ禍において、高齢者向けのスマホ教室が盛況と聞いています。離れた親族との会話をつなぐ手段として、LINEなどの使い方を学んでいる現在であれば、ITなどを利用したサービスも忌避感が少ないと思います。
- 一 市の公式LINEも、ぜひ充実させてほしいです。

